

チュニジア観光紹介（チュニス、カルタゴを中心として）

北は地中海に面し、南はサハラを抱えるチュニジアは北アフリカ中央に位置する日本の面積の 5 分の 2 ほどの小さな国です。地中海貿易の主要都市として、古くから栄えていたチュニジアは、フェニキア人のカルタゴ建国から始まり、今日までローマ、ビザンチン、オスマントルコ…と様々な民族・国がこの地中海の重要拠点を奪い合い、支配してきました。そんな歴史が残した数々の遺跡は各地に点在し、現在文化遺産 7 件、自然遺産 1 件が世界遺産に登録されています。

チュニジアを代表する観光地としてまず首都チュニスがあります。世界遺産でもある旧市街（メディナ）は、一歩足を踏み入れればそこはもう隣り合う近代都市とは隔離された別世界が広がっています。チュニジアのシャンゼリゼ通りと呼ばれるブルギバ通りを直進していくと、目の前に現れるフランス門はメディナの数ある入口のひとつとして、いつも多くの人で賑わっています。

次にチュニス市内から北へ 20 km ほど行くと、地中海沿岸にチュニジアの原点でもあるカルタゴの町があります。今では高級住宅街になっていますが、町のあちらこちらにローマ都市の遺跡を見ることができ、この一帯全てが世界遺産に登録されています。更に、カルタゴの隣町、シディ・ブ・サイドも見逃せません。白い壁にブルーの窓枠や扉の建物がとても印象的です。また、南部に行くと、そこは広大な砂漠の入口となっていて、地中海沿岸とは全く異なる光景が見られます。

チュニジアは、近代的なヨーロッパの雰囲気を持つ地中海のビーチリゾート、歴史が残した数々の遺跡、伝統的なアラブ都市文明、そして荒涼とした砂漠の世界など、様々な表情を持つ魅力あふれる観光立国です。



地中海



チュニス旧市街



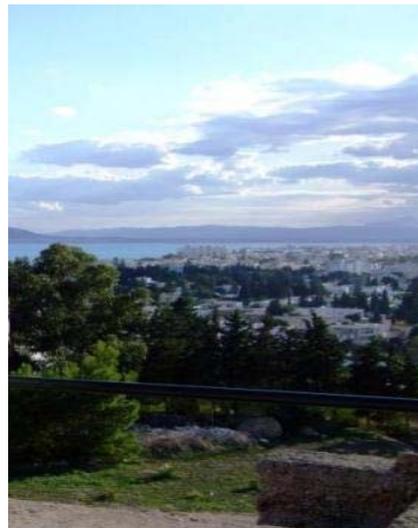
ガラス細工



シディ・ブ・サイド



南部の砂漠



カルタゴ